



『強く生きること』

校長 田代 雅規

オーストラリア人で精神科医のフランクは、第二次世界大戦下の 1942 年 9 月、両親と妻とともにユダヤ人強制収容所に移送されてしまいました。各地の強制収容所へ転々と移される中で、家族と別れ、1945 年 4 月に連合軍に解放されるまで、2 年 7 ヶ月を収容所で生活しました。

フランクは、毎日ガス部屋で殺される恐怖を絶えず味わいながら、九死に一生を得て終戦を迎えました。フランクがその後書いた「夜と霧」「死と愛」という本の中には、この収容所体験をもとに、極限状態に置かれた人間が、いかにして生き続けることができたかについて書かれています。同じ過酷な状況のもとにありながら、最後まで生きのびた人もいれば、力尽きて死んでいった人々もいました。その両者を分けたのは、決して体の頑強さではなかったとフランクは述べています。では、何だったのでしょうか。それは、「希望」をもっているか、もっていないかだったと言っています。ある男性は、「この戦争はいつか必ず終わり、妻や子どもに再び逢える」という希望をもち続け、またある男性は、「戦争が終わったら、やりかけていた仕事を完成させよう」という希望をもっていました。それは、収容所の中において、ほとんど夢のようなもので、実現不可能と思えるものでしたが、その希望を最後まで持ち続けた人のみが、生きて終戦を迎えることができたそうです。フランク自身も毎日水のようなスープを飲まされながらも収容所の人々の心理を考え、いつかその内容をまとめて講演をすることを希望として生活していたそうです。そして、1946 年ウィーンの市民大学で「それでも人生にイエスという」という題名で講演をしました。講演の中で、フランクは自分の経験から、自分が生きていることの意味や希望を見出せている間は、どんなに苦しくても人は生きていく強さを持ち続けられると話しています。

夢や希望には、すぐに叶うものと簡単には叶わないものがあります。でも大切なことは、希望をもち続けることです。自分のもっている夢や希望を絶対にあきらめない強い気持ちが、生きることの意味につながり、強く生きることになります。

震災にあった熊本でも多くの人が、復興を信じて「希望」をもち頑張っています。緑野中では今週末に体育祭があり、次は今年最初の定期テストがあります。緑野中の生徒には、どんなに苦しいことがあっても、自分の夢や希望をもち強く生きて欲しいと願っています。

※緑野中学校では、震災後に生徒会が中心となり、未使用のタオルを集め、阿蘇市役所に送りました。阿蘇市の市長・佐藤様から以下のお手紙をいただきました。

中野区立緑野中学校の生徒の皆さんへ

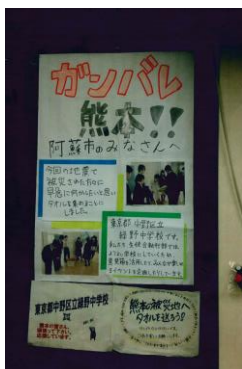
この度は、みなさんから心温まるご支援をいただき誠にありがとうございました。届けられたタオルは、早速各避難所へ配布したほか、保育園等々にも配布させていただきました。

また、みなさんより同封されたメッセージは、来庁された市民の方々にこうした活動を知っていただきたいと思い、支援物資を取り扱った福祉課の窓に貼り出しています。

今回の熊本地震における阿蘇市の被害は、まだ確定ではありませんが、全壊 92 棟、大規模半壊 29 棟、半壊 182 棟で、農業や観光面の被害額は百数十億円に上ります。阿蘇市は、地理で言うと周囲を外輪山という山々に囲まれた盆地の中にあり、今回の地震によって山に大きな亀裂が生じ、実際、地震後に大雨の警報がかかった際には、5,000 名を超える市民の方々に避難勧告や指示を発令し、避難所が 40 箇所、1日の最大避難者数も 7,000 名を超えました。阿蘇市の人口が 2 万 8 千人を割っていますから、阿蘇市の約 4 分の 1 程度のみなさんが避難していたことになります。

記憶にある生徒のみなさんも多くいらっしゃると思いますが、阿蘇市は、4 年前の平成 24 年 7 月に起こった「九州北部豪雨災害」でも未曾有の被害を受け、死者 21 名、行方不明者 1 名と最も被害の大きかった自治体でした。それでも全国津々浦々から熱いご支援と市民一体となって復旧、復興に取り組み、その惨禍からやっと立ち直って平穏な日常が戻ることができました。ですから、これから私たちは、みなさんからいただいた励ましの言葉などを勇気と希望の力に変えて、必ずどこかで美しかった阿蘇市を取り戻します。1 日も早く市民が笑顔を取り戻すためにも復旧、復興に市民ととともに一丸となって努めてまいります。

ご支援に深く感謝し、いつの日か、雄大な阿蘇の自然とともに元気よくみなさんをお迎えできる日を心待ちにしたいと思います。



平成 28 年 5 月
熊本県阿蘇市
阿蘇市長 佐藤 義興



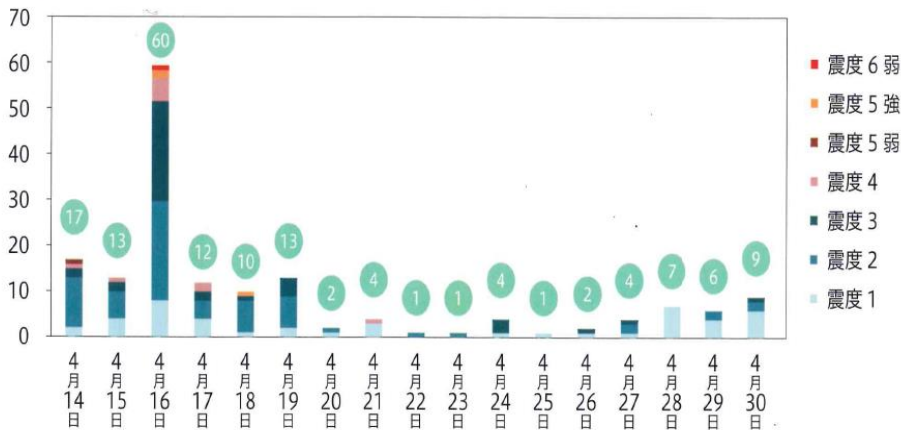
緑野中学校の皆さん
ありがとう！
頑張る熊本

阿蘇市の被害

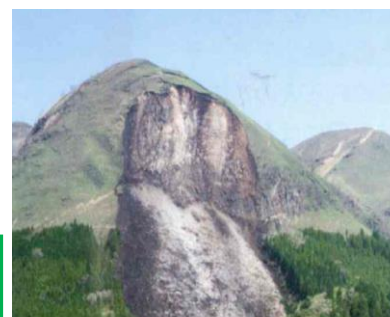
熊本地震の状況 阿蘇市資料より

平成 28 年 4 月 14 日夜に熊本地方を震源とするマグニチュード 6.5 の地震が発生し、16 日には震度 6 弱という誰もが経験したことのないような激しい揺れが阿蘇市を襲いました。停電で真っ暗闇の中、市民の方は広い場所に一齐に避難しました。激しい揺れを伴う余震で恐怖に震える中、夜が明けると地震の凄まじさを物語る被害の全容が明らかになりました。

● 4 月 14 日～ 30 日までに阿蘇市で発生した震度 1 以上の地震回数



阿蘇神社



<被害の状況>

- ① 日本三大楼門にも数えられる阿蘇神社の楼門や拝殿などが崩壊
- ② 国の名勝及び天然記念物に指定される米塚は、各所で亀裂が発生
- ③ 赤水駅付近では、回送中だった列車が、レールが曲がり脱線
- ④ 湯浦や狩尾をはじめとした北外輪山では各所で土砂崩れが発生
- ⑤ 断層と思われる地表のずれが各地で発生、農業に大打撃、農業の被害額は約 106 億円
- ⑥ 阿蘇山への道路は寸断され、内牧温泉街などの旅館では、温泉がでない等の被害があり、観光業にも大きな影響



炊き出しの様子



5月14日の学校公開では、3時間目に「携帯の使用の仕方」について、情報の専門家の下田太一先生（ロジカル・キット）をお招きし、中学生が携帯を使用する上での問題点や注意すること等を全員に説明していただきました。授業後には、保護者の方や地域の方で意見交換会を実施しました。保護者の方からいろいろな意見が出て、有意義な意見交換会となりました。



緑野中学校では、授業公開では毎回参観していただいた保護者の方に、授業アンケートとして、授業の感想や御意見を書いていただいております。

アンケートは、受付でお渡しし授業後にアンケートボックスに入れていただいております。筆記用具も用意してあります。今年度からアンケートも無記名としました。ご協力をよろしく申し上げます。



<保護者アンケートの感想・意見>

- セーフティ教室で使用の仕方について理解できたと子供は言っていたが、自宅に戻ると携帯を使う姿は、今までと変わらなかった。親の声かけが大事であると感じました。
- 今回、入学して初めて授業公開に来て、授業を参観しました。1Aの数学は、大変分かりやすく子供たちの目線に合った授業で楽しかったです。子供を引き付ける話術、ミスをしたときでもフォローする先生の姿勢に好感がもてました。社会科の授業も参観しましたが、教科書だけでなく、大きな地図を使って地域性、世界遺産まで話を広げられ、とても良い授業でした。どの教室の先生の授業も大きく分かりやすい声に子供たちも興味をもって聞いている様子でした。
- 理科の授業がとても面白く、子供が理科好きになって良かったです。黒板がもう少し、綺麗でないと黒板の文字が消しにくそうです。
- ◆黒板が古くなっているので、春休みに3年生の黒板だけ塗り直しました。今年度様子をみて1・2年生の黒板も綺麗にする予定です。 <校長より>
- どの学年の授業も「先生の話聞こう！」という姿勢が出来ていました。先生方の熱心な授業の準備や授業の進め方、授業中の生徒の反応を見逃さない力が大きいのだと感じました。先生方の頑張りをもっと保護者の方に見ていただきたいと思いました。
- 1時間目の音楽の授業を参観させていただきました。私も中学の時にこんな授業を受けたかったと思いがらすっかり生徒の一人になって受けさせていただきました。こんな切り口で音楽の授業を経験したらきっと子供たちは耳の奥が開いて自分なりの「感じる」音楽の親しみ方を身に付けるのでしょう。理論的なことを分かりやすく面白く伝えていただき、終始楽しい授業でした。ありがとうございました。
- 学習指導説明会では緑野中学校の先生方が一生懸命、教育・指導に取り組んでいる姿勢が見られて良かったです。校長先生が型にはまらず、元気で親しみがあり、頼りになれる印象で、保護者まで活力がわき、好感がもてました。
- ◆嬉しい限りです。これからも、たくさんの御意見をいただき、問題点は改善し、お褒めいただいた事は、より良くなるように努力し、保護者の皆様から信頼される学校づくりに尽力していきます。 <校長より>